

初出荷 奥出雲高原トマト

国営開発農地横田一団地のトマト栽培施設が改修され、六月四日、関係者約四十人が参加して初出荷式が行われました。

(株)アグリベストと(有)吉野農園が昨年十二月に施設を取得。今年一月に生産組合「奥出雲農園」を発足し、トマトの栽培育成をスタートしました。

施設内の栽培ハウス四棟には五万五千株が植えられ、「シンディースイート」と呼ばれる中玉トマトが主に栽培されています。このトマトは「奥出雲高原トマト」と名付けられ、関西方面の市場を中心に出荷されます。町内では、産直市場などで販売されます。

初出荷式では、来賓を代表して、小塚昭郎島根県東部農林振興センター所長が「農業の担い手の確保が最重要課題であるなか、農業の技術のみならず経営、流通に精通した企業が参入し、地域農業の担い手の一人として経営展開することに大いに期待している」とあいさつされました。



奥出雲農園の平木雅弘代表は「年間二百六十トを生産し高原トマトのブランド化を進めるとともに、品種改良や販路拡大を行い、消費者ニーズに沿った栽培、販売を目指したい」と意気込みを語りました。



▲初出荷のトラックを見送る出席者

地酒ファンが真剣勝負!

第三十回 島根県素人利き酒選手権大会

七月一日、雲州そろばん伝統産業会館で第三十二回島根県素人利き酒選手権大会が開催され、県内の地酒ファン十六人が出場しました。

この大会は、島根の地酒に親しみながら日本酒の文化や歴史を伝えていくことを目的に、島根県酒造組合が毎年開催しています。

奥出雲町で初開催となった今大会には、町内からも二十三人が出場しました。

競技が始まると、参加者は真剣な表情で口に含んだ時の甘味や酸味などの味や下触り、香りや色を判別して六種類の地酒を飲み比べていました。

競技の結果、初出場の内田咲子さん(下横田)が昨年の優勝、準優勝者を抑えて見事優勝し、参加者から大きな拍手と祝福を受けました。

内田さんは、十月十九日に東京で行われる全国大会に出場する予定です。



▶ 競技の様子

リニューアルオープン

交流館三國・鉄の彫刻美術館

三井野原にある「交流館三國」が六月四日、施設の一部である「奥出雲鉄の彫刻美術館」をリニューアルオープンしました。

オープンを記念して行われた式典には、指定管理者の一般社団法人「レン・ドウ」の小林照尚代表理事をはじめ、井上町長、地元自治会長などが出席して行われました。

出席者を代表して井上町長から「奥出雲の入口としてドライブ途中の方にたくさん利用してもらいたい。来年の春には澄川喜一先生のデザイン

によるおろち像を設置する予定であり、おろちループが全国区の名所になってほしい」とあいさつがありました。

小林代表理事をはじめ五人により、テープカットが行われた後、出席者はリニューアルされた美術館に入り、作品を鑑賞しました。

美術館には、世界で活躍したモニュメント彫刻家の下田治氏の代表作四十四点が展示しており、入館料は無料です。



▶ 作品鑑賞をする出席者

新緑の中を疾走

中国地域自転車道路競走大会

六月十日、尾原ダム・さくらおろち湖自転車周回コースで、「中国地域自転車道路競走大会」と高校生が参加する「中国地域高等学校対抗自転車道路競走大会」が開催され、中国五県の予選を勝ち抜いた約百人の選手が出場しました。

競技は、一周十二・三キロのロングコースを八周する九十八・四キロを走り、順位を競い

ました。

このコースは起伏に富んでいて、選手の息づかいの荒さがコースの過酷さを物語っていました。

沿道からは、選手の仲間や関係者、地元住民などから声援が送られ、選手たちは新緑の中、風を切って懸命に走り抜きました。



▶ 新緑の中を疾走する選手たち

ホームステイ体験

アメリカの高校生 日本研修

アメリカ、イリノイ州シカゴ市にあるストリームウッド高校から日本語を学ぶ生徒、教師あわせて二十七人が奥出雲町での日本研修のため、六月七日に来町しました。

十四世帯のホストファミリーの皆さんが伝統産業会館で迎える中、到着した生徒たちは、対面式を終えると早速十二日間わたるホームステイを始めました。

滞在中は、そろばん作りの体験や座禅体験などの日本文化に触れる活動のほか、町内の多くの学校で子どもたちの交流活動が行われました。

横田中学校ではクイズやゲームを行い、最初は初対面同士の緊張した雰囲気でしたが、相手の国に関するクイズの答えを教えあい、最後には正解するたびに大きな歓声をあげながらハイタッチをするなど、打ち解けた様子で交流を楽しんでいます。

また、四日間、横田高校生として通学し、地元の生徒と共に授業や部活に励みました。滞在の最後に行われたさよならパーティーは、横田高校の有志でつくる「まめなかい」が企画・運営。パーティーで使う食材探しを、「奥出雲宝さがし」と題して横田高校生とともに六つのグループに分かれて出掛け、その食材を使って共同で料理を作り、お世話になったホストファミリーをもてなしました。

奥出雲ホームステイの会の山内祥弘会長は「平成十七年に初めて受入れをしてから、今回初めて横田高校生との共同作業プログラムに取り組むことができ、奥出雲町の国際交流が一步前進した。今回できた絆をこれからも繋いでいきたい」と喜びを述べられました。また、二人の男子学生を受け入れたホストファミリーは「長いようで短い滞在期間だった。次は、もっと長く交流したい」と異文化交流に興味を持った様子でした。

第115回 八川地区民体育大会

「半夏の運動会」で親しまれている第115回八川地区民体育大会が7月1日に行われました。当日は悪天候のため、八川小学校体育館で行われましたが、子どもから大人まで多くの参加があり、屋外に負けないぐらい白熱した競技が行われ、会場内はおおいに盛り上がりしました。



▶ 盛り上がる会場の様子

交流を深める生徒たち

